

THE SHINGASHI BASIN NEWS

新河岸川流域しんぶん

里川

SATO GAWA

発行●新河岸川流域川づくり連絡会 新所沢事務局
住所●埼玉県所沢市弥生町 2996-6 山口ビル1F TEL & FAX 042-994-3212
発行日●2000（平成12）年1月20日

VOL. 7

新河岸川水系1999年度●
身近な川の一言調査報告会開催●
新河岸川水系水環境連絡会

新河岸川水系1999年度●
身近な川の一言調査報告●丹野 忠弘

特集●第2&3回 水循環MAPづくり
ワークショップ報告●
水循環MAPづくり
ワークショップ事務局

活動紹介●白子川●
市民参加の湧水群調査

流域INFORMATION●
2000年2月



切越 毛利将範

1999年11月21日

新河岸川水系1999年度 身近な川の一言調査報告会 開催

「アユのすむ川」と題し、新河岸川水系の99年度「身近な川の一言調査」報告会が11月21日に朝霞産業文化センターで50名余りの参加者を集め行われました。

調査4年目の今年、黒目川と柳瀬川でアユが確認されたことを記念し、漫画「釣りキチ三平」著者・矢口高雄氏を講師に招き、川談義を併せてお話しいただきました。一言調査結果は、新河岸川とその支流26河川187地点の水質・水環境調査と、東京都の清瀬下水処理場も見学した事などが、報告書にまとめられました。

今年の調査の特徴は、見た目のきれいさを透視度計で測ったこと、5地点で魚

類調査が行われたことです。バックテストのケミカルな調査に、感覚的・生物学的な調査が加わりました。

報告会第一部は、白子川・黒目川・柳瀬川・砂川堀・不老川の各参加団体からの特徴報告、新河岸川水系全体は丹野先生（埼玉県立所沢西高校）より受けました。市民の訴えが効いたのか、黒目川沿いの養豚場の廃水処理が進み、格段に水質が向上するという朗報もありました。

第二部は、矢口氏の講演。30年程昔、郷里の林田でカジカが絶滅した農業者の話、アユがすみだしたとは言えIAS（合



成界面活性剤）の影響はいまだ厳しいことや、マスコミが合成洗剤の毒性を追求できない巨大なスポンサーの存在、手塚治虫のストーリーマンガの歴史的意義などなど話題はつきず、第三部では矢口氏と参加者全員でディスカッション。高度成長の時代、公害問題を訴えるには「釣り」だと、「釣りキチ三平」を書いたことや、「身近な川の一言調査」に若者が集まらないことには、若い女性を集めれば人は集まるとのアドバイスもありました。（p2に調査報告）

源流域歩きのまとめ

夕食後、源流域歩きを通して見つけたこと、感じることなどを、グループごとに話し合い整理し、発表しました。そして今回も、「発見カード」を書きました。

100
の夜車座討論
新河岸川流域と5支流域
にわかれて

車座討論は、新河岸川流域と主な5支流域のいずれかの輪に入って、徒然なるままに語り合いました。飲んだり、おやつをつまんだり、時には雑談なんかしていた

るうちに、消灯時間となりました。それでも話し合いたい！人達は、こっそりもある宿泊室に集まり、夜の更けるのも忘れて、賑やかにとことん話し合いました。



アンバー

不老川流域

かつて全日本一、川として有名？になった経験はババに流産目録によって、とても素敵な「不老川・川づくりまちづくりマップ」(N500にて好評発売中)が関係した。「地図を作って」～歩くことでやっとなんて流域という認識ができた。「えー？」処理水のポンプアップをつくりたい。みんなの熱い思いはとどまる事がなかった。

砂川堤流域

源流から河口まで様々な姿に変身する砂川堤は、実に興味深い。いつしか「砂川堤」と、「都市下流域」と呼ばれるようになったのは、みえない水のみちを通る川なればこそ。ならば、冬になったら水が見えなくなってしまうのが当たり前が現代に（しかもすぐそこに）あったって、それも素敵な水循環ですね。

新河岸川流域

新河岸川流域は、クコの実やカラシナなどの植物が豊富で、昔は上流に穀元もあったそう。時々目撃されるタヌキは、でも、宅地化が進むにつれ、井戸水が止まったり、カエルが姿を消したりと変化があるよう。一方、湧水と泉の違いは？民衆水って？という疑問が、水は流れていないとくさってしまふ、という根本的な話題まで発展しました。



夜も更け話ばかりに盛り上がりました



これまでの成果から見つけた

7つのテーマ

「第1回目の下流域歩きと川下り、第2回目の源流域歩き」からの発見や、これまでの話し合いの中から出てきた事柄、さらに名札の情報、アンケートの結果を整理してみました。

2000
の朝とことん討論
7つのテーマにわかれて

水循環・量とのおつきあい

あればこそ話題となる水のお話。「雨水や下水処理水は川に流さず全部地面（土）へ浸透させる」「川へしみ出さずする」「流域自治体で雨水利用を進める」「地域認識化で液体の量が減る」「水は湧き、汗で使う」「水にかけると高コスト、嗜好品化した水（水がまじりから、金があるから、水部課の知恵が無いから）」アレコレ……

人の営みと水循環暮らし編

人の暮らしと水の関わりを見直し、日常の生活の中でどうすれば健全な水循環を育むかを考察した。誰もが安全な飲み水、遊べる水を求めている。そのためには水や川に対する心得やマナーを確立すること。具体的な方策として、雨水タンクの利用や家事に関わる水の汚染の防ぎ方、子供が遊べる川づくりに必要な工夫などを検討しました。



水循環の景

各々が景観に対して様々な意見をもっていて、景観そのものの話を中心になりました。自然と人との共生の中で発生する景観、そのバランスをどうするか……そこが問題だ！という話になり、その中で風景に加え人と川との接点やどういふものにしていったらいいかな、今後の話の中心になりそうです。

目には見えない水の旅

都市の空気を吸う山崎川沿道や三宮新田の林が浄化している。人の生活排水は下水となって流れているなどの議論から存在する見えない水「水質」を、生活の汚染を減らす見えない水「下水」があることを確認。健全な水の流れを保つには、水源をちゃんと知ること、見えない水を見えるようにしてあげること。そして、見ようとする気持ちが必要だよ。楽しいアイデアがたくさん生まれました。

他分野とも関係づけよう



水循環のフオリティ

水の質と量のバランスを保つには、工業、農業を含む、経済的観点から見直していかないとね。その前に「私たちが使っている水でどこから来てどこを流れてどこへ行くの？」まずそれを認識していかないと、水の分別、排水など一人一人ができることから、生活をちょっと変えるだけで環境が変わる。こんなふうの一つの力が大きな力になるんだね。



人の営みと水循環一園土編

「新河岸」の名は舟運の歴史と農土産業を物語。そこには先人の営みもみえてくる。運ぶ「イモ」を生産する人、船づくりに関わる人、川の沿には副産物（水産物）も生れ、活気付いてきたことでしょう。実際にイモを乗せて川を下れば、流域の「水」が見えてくるはず！と、漁民たちによる漁船プロジェクトが発足しました。

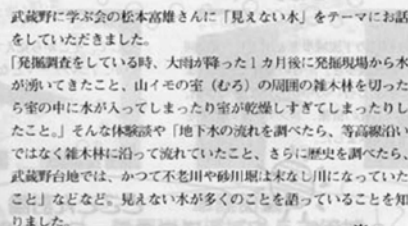
元気な自然と水循環

(人と元気な自然の関わり)

元気な自然とは一本の源に湧く「森」、豊かな「湧水」、「雑木林」はきれいな水の素、たくさんの「生き物」たち、元気な「人」が関わり、楽しく遊ぶ。人と自然がおりて、広がりやボリュームをもった空間が理想的に感じられる中、現実には貴重な水源、汚染される地下水、目的を失った雑木林や水田は税金対策で地味に……自然とどう関わり、残すかが課題だ。

ホーム
ワーク
今回は表現しましょ

●●●● 第3回ワークショップ 1999年12月5日(日) 午前10時～午後4時半 ●●●●



2日間
おつかれさま
でした



泊まりがけでのワークショップ。朝食の前に、ラジオ体操、そして掃除。「こんな子供の時以来」「なんだか合宿生活みたい」ついには「お腹がすいたー」という声があがっていました。



そして、「また、こんなことやりたいね！」
の声も！



みんなで楽しい食事



第1回 下流域で発見 → 第2回 遡流域で発見者える → ホームワーク → 第3回 表現 → 第4回 発表

プログラム



テーマグループ毎に現在までに発見した「水循環」、「水の姿」を地図上に表現し、テーマ別ツアーコースを考えることにしました。

そこで、発見した水の姿や循環を伝えたい水・考えなきやいけな水として流域の地味に書き込んで、問題点や水循環を考える「きっかけ」づくりになるように企画書をグループでつくってみました。

これが私たちが企画した
「水循環を巡る旅」であ。



「当ツアーのおすすめポイントは、こちらとあちらです」



「2000年の干支にちなみ、龍の大群れ編とまとめました」

●目には見えない水の旅●

○キヤツチツビー
「国には見える川がある！人には見えない川もある。」

ツア－のタイトル
「足で走る、顔になて走る！ 気球ツア－」
○時期 オールシーズン
○対象者
東山リ/まちのオアシス平地湧水通りツア－：湧水と石庭、家族連れ
西園リ/松山丘陵湧水通りツア－：健脚コース、サイクリングコース
気球ツア－/湧水裏方家族向けお茶会まで、みんなの音がら賑
わちる

二元気な自然と水循環
(人と元気な自然の関わり)

ダイヤル/キヤッチ/防鎖/対象者

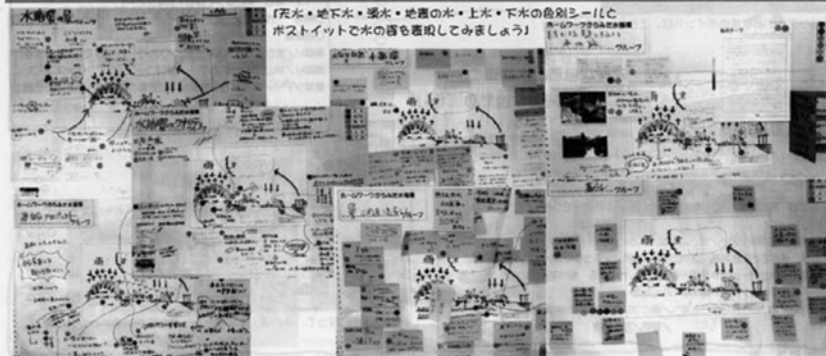
- ◎元気が自然。鼻コース・通風/トットに合えるかも? /四季/五人向き
- ◎Hは素晴らしい! /バウジョーン/庭に似てる! /アツいお湯好きもあるよ!
- /夏/ファミリーにおすすめ
- ◎三宮 商業施設、さらに数駅コース/少ししりしりしててき
- /秋/五人向き
- ◎湯水生産稼働率/アス。こんなところとまだ全然! /フレンド、セロリは
親。湧水でできてお湯。コーヒーも/四季/チ乎乎リストをのせてあな
- ◎栃木市街/アツク/23区間の/湯治としてめくる。都内1回1つのたつき
あるまじやうなアツク/温泉客へ/人々
- ◎アコをはいけげほ口から上へ! /湯とつながる新開所!(成峰を参照ください)
- /夏/親子向き



「水になって、水の道・マンホール・橋を渡りませんか」

「水の形・音・味は確か。

水って、いろいろな形に定めて、私たちのまわりを流しているみたい。そんな水の姿もこんなところで、見つめました。」



人と自然の関わり方が 創り出す水循環の「景」

水循環の景グループ

「景」には人と自然の関わり方が表れます。百聞は一見に如かず。川に近づき水に触れて、時には川に泳ぎ、そこから自然の排水に気配り、水源地に気を配るというように水の事を考えるきっかけとなるのではないかと子供が近づきたい川をとり戻す事、そんな視点で風景をとらえてみました。

「子供の心で感じる水の景」

みんなで見えた身近な川の風景には、懐かしさや冒険気分の源流地、整備された護岸や自然のままの護岸など。もともと川に近づき水に触れられる風景を伝えたい。子供の心で...というツアーを考えました。でもね、メンバーの年齢層は少々高く、旅の終わりは温泉という事に。

鳥には見える川がある。 人には見えない川もある

見えない水グループ

人間が目にする水の姿はほんの一部で、他の生きものには見えているかも...と「鳥になって目に見えない水を見る」ことを考えました。実際、空から三宮新田を見ても土の色が違います。なぜか？多分水の流れがあり、土が固くなってきている。人と自然の歴史を通して水の流れを知ること、伝えることが大切だと考えました。

「足で見る、鳥になって見る！気球ツアー」

日常の中で見えない「水循環」をどうやって見るの？ホームワークからのアイデアで井戸の中の水位を知る手すり水位計、水循環情報付き水道料金明細書など。生きもの達が見えない水を見ている！と、三宮新田を「鳥の目から見る」気球ツアーの他、流域の湧水帯巡りの東回りや西回りのコースを設定しました。



「これは、ぜひ見てもらいたい水の姿だよ」

元気な水には、元気な森が必要だ

元気な自然と水循環グループ

「元気な水には、元気な森や林がなくてはならない」が基本テーマ。元気な水があれば、生きもの（人間も）が元気になる。だから源流の森・雑木林・谷戸・湧水・水は「あるがままに、もったいなく」残していかなきゃ。難しいけど、行き過ぎず戻り過ぎず、流域人の「良感」を呼び起こしつつ。

「水をめくって、元気になりたい！」

あなただけのツアー

「徳川川のみずく、高校の記念行事で市民参加の柳瀬川ウォーキングシンポジウム、健全な流域は元気な体に例えられる」とワイワイ談話。流域で見て欲しい、見たい「源流の森・三宮新田・湧水の生き物・川遊び・都市の川・地下水をつくるお話し」を元気にわくわくツアー株式会社がおすすします。

もっと知りたい、水のゆくえ ～行方不明の水たちWANTED!～

人の営みと水循環～暮らしグループ

「自分が水循環のどこで関わっているのか、水の賢い使い方、水に関する知恵（人・非常用の井戸の位置）などが知りたい」という意見に、生活の中でできることを確認。「流域内の一つの家を假想し、どこからどんな水がどんなルートで通って来て、家の中でどのように使われ、どこへ行くのか、その途中の中で、街の中でどんな工夫をすれば環境に負荷のかからない水の使い方ができるか」をまとめた。

「自分の家をめぐる水の景と都市における水の景」

一番身近なところから水ははまる。ことが大切だと考えるけれど、現実的には「自分が飲んでいる水が流域とは違う水系から来ていること」「使った水の成分が浄水場の処理にどのような負荷をかけているか」など知らないことがたくさんある。自らができるところは何かしら。上・下水のルートが一目でわかり、暮らしの中の様々な水問題を解明できるツアーです。



「地図に書き込んでみよう」

日照りと大雨。 どちらも同じ水とのつきあい

量とのおつきあいグループ

情報共有をしてみても、地下水、志木市の年間降雨量、野火止用水、造成目的の不思議、土水のための導水、農業用水のための引水、下水処理の放流水などなど、自然の恵みばかりでなく人間の智慧とエネルギーを使って水循環が複雑化し、量の把握も単純化しづらい状況であることが確認されました。

「（おがみ）2000ツアー

～龍の大暴れ編&カッパの嘆き編～
量の原点である降水量の多少を視覚的に2分して、ヘリコプターによる日照りの時の水やりくりを助ける超減水ツアーとズブぬれになって、現を歩ながら大雨であふれそうになる川を心配するツアーとしてまとめました。

水循環の復活は、 ヒト・モノ・文化・情報の循環だ

人の営みと水循環～通船プロジェクトグループ

流域の風土が培った舟運は現代社会の営みにより衰退し、それは水循環をも変容させてしまった。まずは通船困難な今の川を体験、水循環の大切さを伝える船を新河岸川に復航させたい。水循環の復活は、ヒト・モノ・文化・情報の循環につながる。その象徴として舟運を復活させたいと考えています。

「水土の旅～舟に乗りませんか～」

今の川は、船を通すことさえままならない。昔は九十丸曲り、今はまっすぐ。水がすぐに流れてしまいくみずみず。流域水循環の「昔と今」の違いがよくわかる、とっておきの場所を巡り、仲間を集めながら舟運復活に一歩ずつ近づこうというツアーです。

周りの環境で変化する水の質 水のクオリティグループ

水の全量から見れば家庭排水量は少しなのに、どうして川が汚れるの？濃度の高い不溶・不汚物が含まれているから？水の分別や節水、浄化の重要性を知り、一人一人が毎日の生活の中でほんの少し気を配る。そうすれば、水の流れに大きな変化が起こり、川にもっと素敵な時間と流れが流れるでしょう。

「下水の水になれる！～我が家の水の旅～」

我が家の水の旅は、川に行き着くまでに見えない川（管渠）や下水処理場など様々なところを巡って行きます。川の水質を調べてみると、周りの環境によって随分違うのに驚きます。ツアーでは、普段見られない水の流れに身を投じて、水質の変化を身をもって体験できます。まずは押さえてみましょう！



「これが水のルートだよ」